

1 3	豊橋	羽田中学校	イノウエ カスミ 名前 井上 佳住美
分科会番号	7	分科会名	美術教育

研究題目

自ら主題を生み出し、構図や色彩を工夫しながら、自分の思いを自信をもって表現できる生徒の育成
～第1学年 「推し」えたい！心ひかれる羽田中百景（風景画）の実践を通して～

1 主題設定の理由

本学級の生徒は、美術の授業に対して意欲的であり、「心が落ち着く」「言葉では伝えられない思いを表現できる」など、表現活動に価値を見いだしている生徒が多い。授業や学級活動では、自分の考えを言葉で表現しようとする姿も見られ、自己表現への意欲は高い。また、入学して半年が経ち、生徒たちは部活動や学校生活を通して羽田中学校への愛着を深めている。自分なりの思いや感じ方をもっている生徒たちだからこそ、それらを構図や色彩などの表現方法と結び付けることができれば、自ら主題を生み出し、思いを表現することができるのではないかと考えた。

そこで本題材では、身近な学校という題材を扱い、「新入生に羽田中学校の魅力を伝える」という他者意識をもたせることで、生徒が主題を必然的に生み出せるようにした。また、構図や色彩についての学習を段階的に取り入れることで、「思い」と「表現方法」を結び付け、発想を広げながら自信をもって制作できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

2 目ざす生徒像

自ら主題を生み出し、構図や色彩を工夫しながら、自分の思いを自信をもって表現できる生徒

3 研究の内容

（1）研究の仮説

本題材では、生徒が日常的に関わっている学校の風景の中から、人に薦めたいほど気に入っている場所を見だし、新入生にその魅力を伝えることを目的とした風景画を制作することとした。入学して半年が経ち、学校生活に慣れてきたこの時期の生徒にとって、身近な題材と「誰かに伝える」という目的意識をもたせることが、主題を生み出し、意欲的に表現活動に取り組むことにつながると考えた。また、学習指導要領美術科第1学年A表現（1）イでは、「伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること」と示されている。本題材では、新入生に学校の魅力を伝えるという目的のもと、モネの作品鑑賞による視点の獲得や構図・色彩の学習、意見交流やタブレットを活用した試行錯誤の機会を通して、自分の思いと表現方法を結び付ける学習過程を構想した。

このように、自分の心ひかれる風景を表したいという思いをもち、構図や色彩の効果などの知識を取り入れながら試行錯誤を重ねることで、より主題にせまる表現が生まれていくことが期待できると考え、目ざす生徒像をふまえて以下のように仮説を設定した。

- 仮説① 身近な経験や目的意識と結びついた題材を設定することで、生徒は主題を自ら生み出し、主体的に制作に取り組むだろう。
- 仮説② 名画から構図や色彩などの知識を学び、それを手がかりに、他者との交流や試行錯誤の場を設けることで、生徒は自信をもって自分の思いを表現することができるだろう。

（２）研究のてだて

ア 伝える相手を意識した題材設定（仮説①のてだて）

生徒たちは、入学して半年が経ち、部活動や学校行事、日々の学校生活を通して羽田中学校への愛着や親しみを深めている。そこで本題材では、「新入生説明会で絵を飾り、小学６年生に羽田中学校の魅力を伝える」という目的を最初に設定した。実際に伝える相手を意識することで、生徒は自分が紹介したい場所や伝えたい思いを見つめ直し、主題を生み出しやすくなると考えた。まず、校内を自由に巡りながら、自分が人に薦めたいと思う風景をタブレット端末で撮影する活動を行う。風景を選ぶ過程で、「なぜこの場所が好きなのか」「どんな魅力を伝えたいのか」を考えることで、自分の経験や思いと主題を結び付けることができるだろう。また、新入生の立場を想像しながら作品づくりを進めることで、「羽田中の魅力が相手に伝わる作品にしたい」という意欲を高め、主体的に制作へ向かう姿を期待したい。

イ 作品鑑賞による表現方法の獲得（仮説②のてだて）

モネの「ヴェトゥイユのモネの庭」の鑑賞を通して、構図や色彩によって作者の思いが伝わることに気づかせたい。「第一印象」「色彩」「構図」の順に視点を焦点化しながら作品を見合うことで、「なぜそのように感じたのか」を考えられるようにする。また、意見交流を通して自分とは異なる感じ方や捉え方に触れることで、同じ作品でも受ける印象が異なることに気づくと考える。さらに、生徒から出た作品の印象を表す言葉から、作者がどのような思いでこの風景を描いたのかを考えることで、構図や色彩には表現したい内容を伝える役割があることを理解できるはずである。こうした活動を通して、生徒は「新入生に自分の思いを伝えるにはどのような表現がよいだろう」と考え、構図や色彩を工夫しながら表現しようとしてほしい。

ウ 構図や色彩の知識の活用（仮説②のてだて）

生徒たちが自分の思いを相手に伝えるための手がかりとして、一点透視図法や色彩の効果について学ぶ機会を設ける。一点透視図法では奥行きや視線の流れを意識した表現方法に気づかせ、色彩の学習では暖色や寒色、配色による印象の違いについて理解できるようにする。これらの知識に出合わせることで、「奥へ続く感じを伝えたい」「温かい雰囲気が伝わる色にしたい」など、相手に伝えたい内容に応じて構図や色彩を選択する姿が見られるだろう。また、友達の作品や意見と比較しながら考えることで、表現にはさまざまな方法があることにも気づくとともに、画材を自由に選択できるようにすることで、表現したい雰囲気に合った方法を試しながら制作を進めることができると考える。知識を表現の根拠として活用することで、自分の思いがより伝わる表現につなげていってほしい。

エ ICTや意見交流の機会の活用（仮説②のてだて）

生徒が自分の思いの伝わり方を確かめながら表現を追求できるよう、タブレット端末を活用した構図の検討や画材選択を取り入れる。構図の検討では、写真のトリミングや再撮影を行いながら複数の構図を比較し、「どの構図なら魅力が伝わるだろう」と考えられるようにする。また、中間鑑賞や意見交流を通して他者からの視点を取り入れることで、自分の表現を客観的に見直すことができるだろう。何度でも試したり修正したりできる環境を整えることで、相手に伝えたい思いにより近づく表現を追求する姿を期待したい。

（３）抽出生徒について

生徒Aは、美術の授業に意欲的に取り組み、「言葉で伝えられない思いを表現できるところが好き」と話している。これまでの制作でも細部までこだわりながら丁寧に作品を仕上げてきた。

本題材においても、新入生に羽田中学校の魅力を伝えるという目的を意識しながら、自分なりの主題を生み出していくことが期待される。そして、「好きな場所を描く」だけでなく、「何を伝えたいのか」を明確にし、その思いに合った構図や色彩を選択しながら、自信をもって主題を追求する姿を期待したい。

(4) 題材構想図

てだて②エ 表現手段の活用
ICT 機器

てだて②イ 鑑賞活動

てだて②イ 形や色の視点

てだて②ウ 色の知識

てだて②エ 試行錯誤できる
表現手段の工夫

てだて②イ 意見交流



てだて①ア 題材構想の工夫

4 実践と考察

(1) 題材との出会い (第1時)

授業の導入では、新入生説明会で小学6年生に羽田中学校の魅力を伝えることを目的に、「羽田中学校で『推し』えたい場所はどこだろう」と問いかけた。生徒たちからは、「図書室は落ち着くから紹介したい」「体育館は部活動を頑張っている場所だから見てほしい」などの発言が聞かれ、自分の学校生活を振り返りながら羽田中学校の魅力について考えることができた。

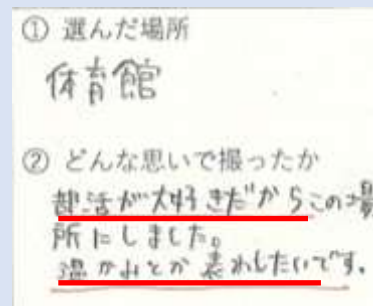
その後、校内を自由に歩きながら、心ひかれる風景をタブレット端末で撮影した。生徒たちは、自分なりの「推し」えたい風景を探しながら、校内のさまざまな場所を写真に収めていた。【資料１】

生徒Aは体育館を選択した。その理由として、「部活が大好きだからこの場所にしました。温かみとか表したいです。」と記述していた。「温かみ」について問い返すと、「部活でいい時もつらかった時も、仲間がそばにいてくれたから」と話しており、仲間とのつながりやその場の雰囲気をも表現しようとしていることがうかがえた。【資料2】

以上のことから、「新入生に羽田中学校の魅力を伝える」という目的を設定したこと（てだて①ア）は、生徒が自分の経験や思いと結び付けながら主題を生み出すことにつながったと考える。



【資料1 生徒Aが第1時に撮影した写真】



【資料2 導入の生徒Aの振り返り】

(2) 鑑賞活動(第2時)

自分の「推し」えたい風景が決まったところで、モネの「ヴェトウイユのモネの庭」を鑑賞した。まず、「この作品からどのような印象を受けるだろう」と問いかけると、「ふんわりしていて優しい感じがする」「道が奥まで続いていて吸い込まれそう」などの意見が出された。

そこで、「なぜそのように感じるのだろう」と問い返すと、「色が淡いから優しい感じがする」「道がだんだん細くなるから奥行きを感じる」など、構図や色彩を根拠に考える姿が見られた。また、モネが思い入れのある風景を描いていたことを伝え、生徒たちは制作者の思いにも目を向けながら鑑賞を深めていった。

生徒Aは、カラフルな色彩やヒマワリに着目し、「明るくにぎやかで楽しそうなイメージ」と作品を捉えていた。また、「家に帰ってきた喜びを表していると思う」と制作者の思いを想像するとともに、「きれいな庭よりも家に続く道や家が大切なのではないか」と考え、構図にも目を向けていた。さらに、「モネがこの庭を大切に思っていたから描いたのでは」「家族との穏やかな思い出を伝えたかったのかな」など、モネがこの風景を題材に選んだ心情についても考えていた。振り返りには、「ここに来たら仲間がいる、ここが温かくていい場所だと伝えたい」「奥行きのある構図にしたい」「黄色系の温かみのある色を使いたい」と記述しており、鑑賞を通して得た構図や色彩の視点を、自分の表現に生かそうとしている様子がうかがえた。【資料3】

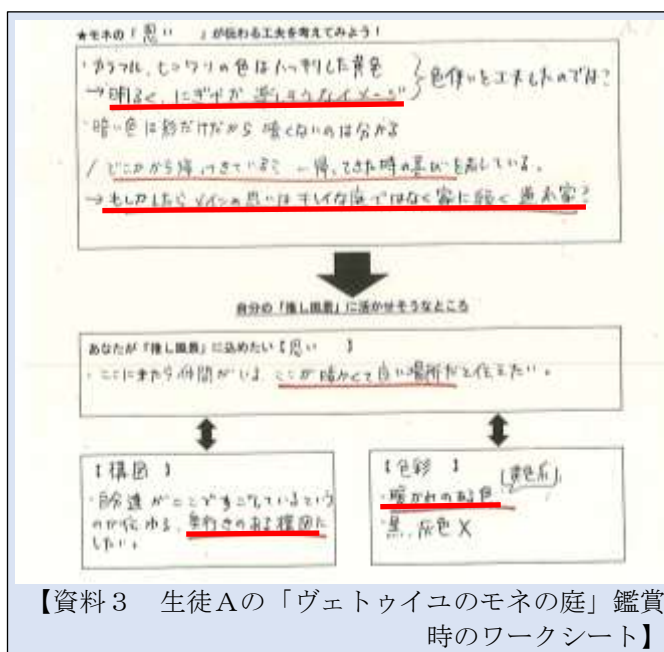
以上のことから、構図や色彩の視点を焦点化した鑑賞活動(てだて②イ)は、生徒が作品の印象と造形的な要素との関わりを考えたり、制作者の思いを捉えたりすることにつながったと考える。一方で、制作者がその題材を選んだ理由や表現意図について十分に考えを深めきれない生徒も見られた。

(3) 構図の検討(第3～6時)

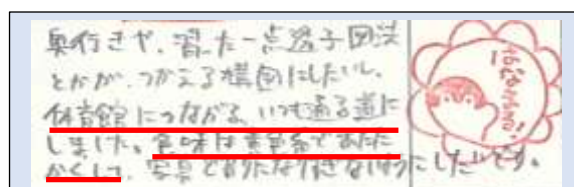
モネの作品鑑賞を通して、構図や色彩によって思いを表現できることに気づいた生徒たちに、「どのような構図なら『推し』えたい風景の魅力が伝わるだろう」と問いかけた。生徒たちは一点透視図法について学習した後、タブレット端末を活用して撮影した写真を見直しながら構図を考え、「見せたい部分を大きくしたい」「奥行きが伝わるようにしたい」など、自分の思いに合わせて構図を工夫しようとする姿が見られた。

構図の検討では、トリミング機能を使って写真を切り取ったり、再度撮影したりしながら試行錯誤できるようにした。生徒たちは複数の構図を比較しながら、「どちらの方が魅力が伝わるだろう」と考え、よりよい表現を追求していた。

生徒Aは、当初、体育館の入り口付近を中心に切り取った構図を考えていた。しかし、一点透視図法の学習やクラスメイトとの構図の確認を通して、「体育館そのものよりも、体育館につながる、いつも通る道を表したい」と考えるようになった。そこで、



【資料3 生徒Aの「ヴェトウイユのモネの庭」鑑賞時のワークシート】



【資料4 生徒Aの振り返り】



【資料5 生徒Aの構図の検討後に撮影した写真】

渡り廊下の奥に体育館が見える構図へと変更した。振り返りには、「体育館につながる、いつも通る道にした」と記述しており、自分の経験や思いを見つめ直しながら、主題により合った構図を選択したことがうかがえた。【資料4、5】

以上のことから、一点透視図法について学ぶ活動（てだて②ウ）や、タブレット端末を活用して構図を比較・検討できる場の設定（てだて②エ）は、生徒が自分の思いと表現方法を結び付けながら、より主題に迫る表現を追求するために有効であったと考える。

（4）中間鑑賞（第7時）

構図が決定したところで中間鑑賞を行った。生徒たちはワークシートや下描きを見せながら、自分が表現したい思いや構図・色彩の工夫について伝え合った。「この構図だと体育館まで続く感じが伝わる」「手前を大きく描くと奥行きが出ると思う」など、これまでの学習を基に意見を交流する姿が見られた。

全体での意見交流では、「温かい雰囲気は黄色やオレンジで表せそう」「青色でも落ち着いた温かさを表現できると思う」などの意見が出された。生徒たちは自分とは異なる見方や表現方法に触れ、多様な表現の可能性について考えていた。

その後、友達の作品や助言を参考にしながら、構図や色彩を再検討する時間を設けた。生徒Aは、自分が大切にしている場所の魅力を伝えたいという思いをもちながら作品を見直していた。当初は体育館の入り口付近を中心にした構図を考えていたが、「体育館そのもの」よりも「体育館につながる、いつも通る道」を表した方が思いが伝わると考え、構図を変更した。また、「黄色…わくわく、明るい」「あわく、やさしく」とメモし、伝えたい温かい雰囲気に合う色彩を検討していた。【資料6】さらに、「友達の作品を見て、すごいすいこまれる構図がイイと思いました」「ただ色えんぴつじゃなくて絵の具も組み合わせてつかってみたい」と記述しており、表現方法への関心を高めていることがうかがえた。

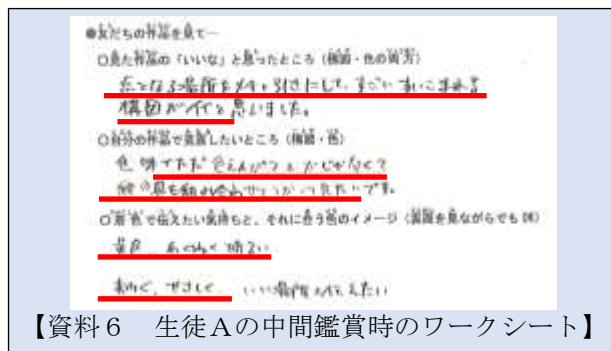
以上のことから、中間鑑賞における意見交流（てだて②エ）は、他者の見方や感じ方に触れながら自分の作品を見直し、主題によりせまる表現を追求することにつながったと考える。

（5）着色制作（第8～11時）

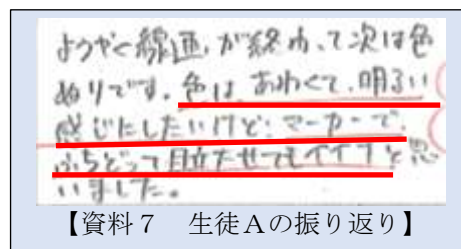
第7時の中間鑑賞をもとに、生徒たちは着色制作を進めた。色彩について学んだことや友達からの助言を参考にしながら、自分が伝えたい思いと表現方法との関わりを考え、よりよい表現を目指して制作する姿が見られた。

生徒Aは、「ここに来たら仲間がいる、ここが温かくていい場所だと伝えたい」という思いをもとに、黄色系を中心とした温かみのある色彩で着色を進めた。また、「色は淡くて明るい感じにしたいけど、マーカーで縁取って目立たせてもいいな」と考えながら、表現したい雰囲気に合う色彩や表し方を検討していた。【資料7】さらに、体育館の入り口に視線が集まるように、光が差し込む様子を意識して色を重ねるなど、塗り方を工夫しながら丁寧に着色を行っていった。【資料8】

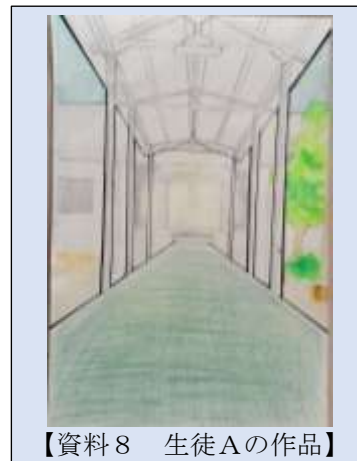
完成した作品を見ると、「思ったより温かい感じになった」など、嬉しそうに作品を見せ合う生徒たちの姿が見られた。生徒Aの振り返りには、「塗る向きとかを工夫することで、引き込まれる構図になることもわかりました」と記述し、色彩だけでなく、タッチの違いによって作品の印



【資料6 生徒Aの中間鑑賞時のワークシート】



【資料7 生徒Aの振り返り】



【資料8 生徒Aの作品】

象が変わることに気づいていたことがうかがえた。また、中間鑑賞で考えた「黄色…わくわく、明るい」「あわく、やさしく」というイメージを意識しながら着色することで、自分の思いが伝わる作品に近づけようと試行錯誤する姿が見られた。

以上のことから、構図や色彩の知識を表現に活用する活動（てだて②ウ）や、画材を選べるようにしたことは、生徒が色鉛筆で加筆したり、透明水彩絵の具とアクリルガッシュを併用したりするなど、自分の思いに合った表現方法を主体的に選択することにつながったと考える。また、試行錯誤を重ねながら表現を追求することで、自分の表現への確かさを高めることができたといえる。

（６）発表・鑑賞（第１２時）

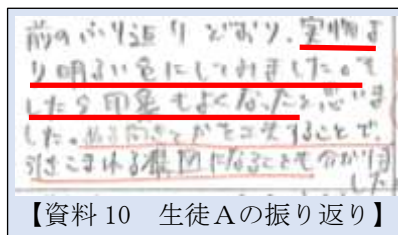
完成した作品を鑑賞した。生徒たちは友達の見ながら、「奥行きがあって引き込まれる感じがする」「同じ学校でも選ぶ場所や色の使い方が違って面白く」などと話していた。また、作品に込められた思いや工夫を知ることによって、自分とは異なる見方や感じ方に気づく姿も見られた。

その後、新入生説明会で作品を展示した。【資料９】小学６年生からは、「学校の温かい雰囲気が伝わった」「羽田中学校に通うのが楽しみになった」などの感想が聞かれた。生徒たちは、自分たちの作品を多くの人に見てもらえたことに喜びを感じている様子であった。

生徒Ａは、体育館へ続く渡り廊下を題材とした作品を完成させた。振り返りには、「実物より明るい色にしてみました。そしたら印象もよくなったと思います」と記述しており、伝えたい雰囲気に合わせて色彩を工夫したことがうかがえた。また、「小学生に見てもらえてうれしかった」と話しており、自分の表現が他者に伝わる喜びを感じていたことが分かる。【資料１０】



【資料９ 掲示作品（一部）】



【資料１０ 生徒Ａの振り返り】

以上のことから、「新入生に羽田中学校の魅力を伝える」という目的を設定したこと（てだて①ア）は、生徒が自ら主題を生み出し、主体的に制作に取り組むことにつながったと考える。また、構図や色彩についての学習や意見交流（てだて②イ・ウ・エ）は、自分の思いに合った表現を追求することを支えた。さらに、作品を展示し他者から反応を得る経験は、表現への自信につながったことだろう。

５ 成果と課題

本題材では、新入生に羽田中学校の魅力を伝えるという目的意識をもたせたことで、生徒は自分なりの「推し」えたい風景を見つけ、自ら主題を生み出しながら主体的に制作に取り組むことができた。また、モネの作品鑑賞や構図・色彩の学習、意見交流を通して、構図や色彩といった造形的な視点を基に表現を工夫する姿が見られた。特に、作品鑑賞や制作の場面で構図や色彩について問い返したことは、生徒がその効果や表現との関わりについて考え、自分の表現に生かそうとする姿につながった。

一方で、構図や色彩が表現意図とどのように結び付いているのかについて、生徒によって考えの深まりに差が見られた。色彩が作品にもたらす印象については捉えやすかった一方で、構図が見る人に与える効果や、制作者がその構図を選択した意図について十分に考えを深められない場面もあった。そのため今後は、構図や色彩について問い返す支援を継続するとともに、「なぜこの構図にしたのか」「構図を変えるとどのような印象になるのか」といった発問を工夫し、造形的な要素と表現意図との結び付きをより深く考えられるようにしていきたい。